

準天頂衛星初号機「みちびき」を利用した「みちびきアート」プログラムの実施

PDL01

小菅 京 (東工大附属科学技術高校)、 松本 直記 (慶應高校)、藤木 郁久 (和歌山県立桐蔭高校)、山口 明德 (佐賀県立唐津東高校)、伊藤 智章 (静岡県立吉原高校)、加藤 徹 (早稲田大学高等学院)、佐藤 奈穂子 (和歌山大学)、塚田 晃司 (和歌山大学)、若林 野花 (JAXA)、山下二郎 (JAXA)、長田 奉公 (JAXA)、宇津巻竜也 (JAXA)

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) が実施する準天頂衛星初号機「みちびき」の多地点・多利用形態における GPS 補完技術実証実験への協力の一環として、高校教育における「みちびき」の活用を目的とし「みちびき」高校生プログラムワーキンググループ (メンバーは本発表共同講演者) を発足し、主に高校の課外活動向けのプログラムを企画し、実施した。本プログラムでは、「みちびきアート」と題し、「みちびき」+GPS 受信機と、比較用の GPS 受信機を持って移動し、たどった軌跡でメッセージや模様を地図上に描くことで、GPS 補完技術実証実験のデータを得るとともに、デジタル地上絵を描く取り組みを行った。

「みちびきアート」プログラムには、JAXA 宇宙教育センターのウェブサイトの公募を通じて 20 を越える高校、団体が参加し、2011 年 11 月より 3 か月程度活動を行った。作成した「みちびきアート」は Web 上のコミュニティサイトに投稿する形で共有した。コミュニティサイトでは文章、画像の投稿が可能で、技術的な質問に対する回答や、交流などもこの場で行われた。各地で描かれた「みちびきアート」と実験の様子をまとめたものを、ポスターとして作成し展示する。参加した生徒の感想なども紹介する予定である。